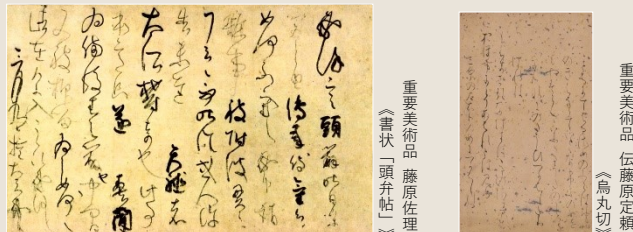




ふくやま書道美術館は、福山市出身の書家である栗原蘆水が長年にわたり収集した中国明清時代の書画篆刻や文房具などの貴重なコレクションを受贈し、2003年8月に開館しました。栗原コレクションは、日本・中国の書画をはじめ、篆刻作品や墨・硯・筆・印材・筆筒・水滴などの文房具で構成されています。また福山市出身で、戦後のかな書道界を牽引した桑田笹舟のご遺族からは、平安古筆を含む桑田家コレクションの寄贈を受けました。このほか、福山ゆかりの書家の遺墨など多彩な作品を所蔵しており、現在は所蔵品展および教育普及事業を開催しています。

日本の書画

奈良・平安時代の貴重な古筆から、現代の代表的な作家まで幅広い年代の作品を収蔵しており、日本の書の変遷を辿ることができます。



中国の書画

董其昌・張瑞図・王鐸・傅山・呉昌碩など、明代中期から現代（2000年頃）までの文人の作品を収蔵しています。



文房至宝



ふくやまゆかりの書家作品



インフォメーション

ふくやま書道美術館

JR福山駅福山城口(北口)から西へ400m

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号
電話：084-925-9222 FAX：084-925-9223

URL：https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/
E-mail：syodo@city.fukuyama.hiroshima.jp

駐車場：68台(所蔵品展観覧のお客様は1時間無料)

- 休館日 月曜日(祝休日の場合開館、その翌日休館)、年末年始
- 開館時間 午前9時30分～午後5時(時期により夜間開館あり)
- 観覧料 所蔵品展/一般150円(120円)※()内は有料20名以上の団体料金 ※高校生以下無料

ふくやま美術館

JR福山駅福山城口(北口)から西へ400m

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号
電話：084-932-2345 FAX：084-932-2347

URL：https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/
E-mail：art@city.fukuyama.hiroshima.jp

駐車場：68台(特別展・所蔵品展観覧のお客様は1時間無料)

- 休館日 月曜日(祝休日の場合開館、その翌日休館)、年末年始
- 開館時間 午前9時30分～午後5時(時期により夜間開館あり)
- 観覧料 所蔵品展/一般310円(250円)※()内は有料20名以上の団体料金 ※高校生以下無料 ※特別展の観覧料は別に定めます

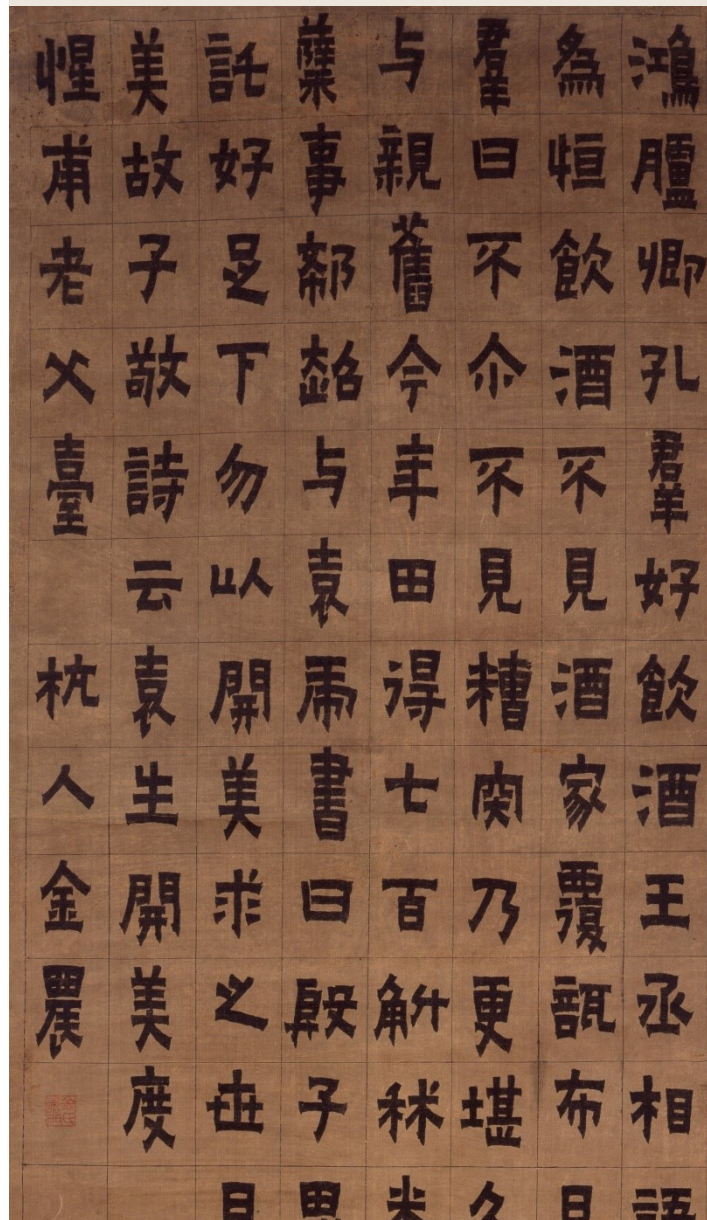


山陽自動車道福山東インターから車で20分

EXHIBITION 2025

2025 ふくやま書道美術館
FUKUYAMA MUSEUM OF CALLIGRAPHY

展覧会カレンダー



金農《漆書軸》(部分)

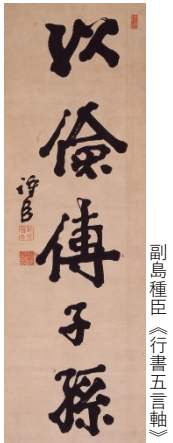
2025年度開催の所蔵品展

春の所蔵品展

一行書の魅力

4月4日(金)～5月6日(火・休)

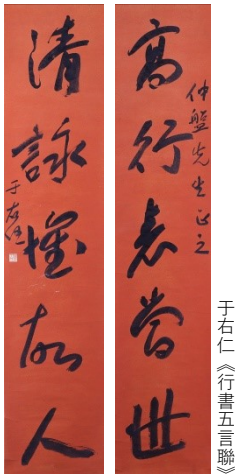
一行書は縦長の紙に、禅語や漢詩の中から抜いた五言や七言等の佳句を揮毫したものです。短く簡潔な内容で理解しやすく、一字一字を大書でき、ダイナミックに表現ができる点で好まれています。一行書の魅力に触れてみてください。



夏の所蔵品展 I
対聯の魅力

5月10日(土)～6月14日(土)

対聯は、同じ形式で意義の対応する二句を並べて用いた「対句」を、門柱や家屋の入口の壁に書いたり、布や紙に書いて軸にしたものです。中国の生活文化における伝統的な習慣から生まれた対聯の書の魅力を感じてください。



夏の所蔵品展 II
一緒に見る 家族の書

7月4日(金)～8月24日(日)

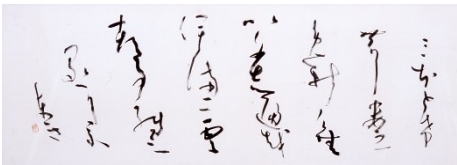
作品を制作した各作家の略歴に着目した時、他の作家と家族・親族の関係をもつ作家が多いことが分かります。本展では「家族」をテーマに、時代をつなぐように書文化を築き上げてきたそれぞれの家族の書をご紹介します。



秋の所蔵品展 I

没後20年 中室水穂

8月29日(金)～10月19日(日)



中室水穂《みほとけ》

没後20年を迎える福山市出身のかな書家・中室水穂（1935～2005）は、桑田笹舟・三舟父子に師事して書の道を進みました。古筆や料紙の研究により培われた表現だけでなく、墨跡調の力強い漢字表現にも取り組んだ中室水穂の創作の軌跡を辿ります。

秋の所蔵品展 II

文房具を愛でる

10月24日(金)～12月14日(日)

文房とは、もともと文書を司る地位を意味し、後に書画を鑑賞する書斎、そして宋代には文房具を意味するようになりました。本展では、文房四宝と呼ばれる筆・墨・硯・紙のほか、印材や筆筒、水滴などを展観し、文房具の優雅な趣をご堪能いただけます。



(硯)端溪 東洞天然硯
(水滴)辰砂金剛山
(筆)象牙筆管

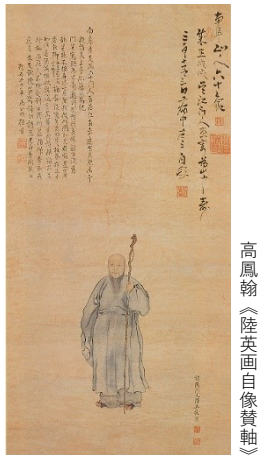
冬の所蔵品展 I

気になる！？

怪物たちの書と絵画

12月20日(土)～2026年2月8日(日)

書風において独特奇怪なことから「揚州八怪」と称された書家たちがいます。この八人の怪物として名を連ね、中国・清代の康熙末頃から乾隆期にかけ活躍した、高鳳翰、鄭板橋、金農、李鱓の書画を中心に紹介します。



高鳳翰《陸英画自像贊軸》

冬の所蔵品展 II

金石を見つめる 一碑学派の人たち

2026年2月13日(金)～3月29日(日)

清代の嘉慶期から清末に至るおよそ100年の間は、碑学派と呼ばれる書人が活躍した時代です。それまで書法は法帖を中心として学ばれていたのに対し、漢・魏、北朝におよぶ石刻や、篆書や金文など古代の文字に着目する動きが盛んになりました。金石を探究した人々の、多様な書表現をお楽しみください。



吳讓之《篆書四屏》

普及事業

以下掲載画像は2024年度の展示風景

第20回一緒にかく古代文字展

8月1日(金)～8月17日(日)

漢字の基となった古代文字を家族や友だちと一緒にかくワークショップを行い、その作品を表装して展示します。



ETOをかく2026新春展

2026年1月2日(金)～1月18日(日)

2026年の干支「午」を筆でかいた作品を募り、届けられたすべての作品を展示します。



第21回ふくやま書道美術館臨書展

2026年1月27日(火)～2月15日(日)

学生たちが書の表現を学ぶために、数々の古典の中から臨書（見て書く）した作品を募集し、優秀作品を展示します。

